

令和4年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 日時： 令和4年10月12日（水）14時～15時30分

2 会場： 大阪府立三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

[委員] 田中 満公子 委員（大阪教育大学連合教職大学院教授／本協議会 会長）

今西 邦夫 委員（本校同窓会長／本協議会 副会長）

井上 博史 委員（大阪公立大学教授）

河野 泰之 委員（京都大学副学長）

田中 孝子 委員（本校 PTA 会長）

坂部 弘重 委員（堺市立三国丘中学校長）は校務により欠席

※ 学識経験者は着任順に表記しています

[教職員] 藤井 光正（校長）、福本 美紀（教頭）、中川 和明（事務部長）

田中 和代（首席）、吉田 憲司（首席）

宮根 隆（1学年主任）、大塚 雅之（2学年主任）、長井 一也（3学年主任）

中村 駿太（進路指導主事）、尾崎 勇魚（SSH 主担）、田中 洋平（SGH 主担）

古木 康大（本年度新規採用教諭）、小黒 莉奈（本年度新規採用教諭）

4 協議事項及び報告者

(1) 令和4年度学校経営計画の進捗状況について（校長）

(2) スクール・ミッションについて（校長）

(3) 各学年の状況について（各学年主任）

(4) SSH の取組について（SSH 主担）

(5) SGH の取組について（SGH 主担）

(6) 進路指導の進捗状況について（進路指導主事）

5 提言〈委員の意見等〉

○ SGH や SSH、部活動などで活躍できる生徒がいることが三国丘高校の強みであり、そんな生徒が卒業後にどのようなキャリアに進んだのかという情報を受験生（中学生）にアピールすることが今後の三国丘高校にとって重要である。

○ SSH の取組を進める中で実験装置等のハード面で困ったときは近隣の大学に相談するのも一つの方法だと思う。力を貸してくれる大学は多いはず。

○ コロナ禍中であっても教員が三国丘高校生のロールモデルを積極的に語れば、生徒もそれを意識して頑張るのではないかと思う。

6 協議の概要

(1) 令和4年度学校経営計画の進捗状況について

【説明の概要】…学校経営計画に記載のある事業を中心に説明

- ◇ コロナ禍で中止していた事業（海外研修を含む）の再開や新規事業立上げ、内容充実など
〔 京都研修（リーハイ大学オンライン講座+京セラ）〈新規〉、物理体感校外学習（JAXA見学+本校出身東京大学院生による事前講義）〈内容拡充〉、弁護士講座（「公共」授業内で実施）〈新規〉三丘セミナー（20講座超）、NASA研修（新たな交流校を設定・SSH事業・2月末実施予定）オーストラリア語学研修（3月末実施予定） 〕
- ◇ 指標に関する進捗状況
部活動加入率 95%以上（達成）、遅刻件数 702 件(年度目標 1000 件以内)

【委員】遅刻に関して特別な指導は行っているのか。

【学校】生徒の健康状態や家庭状況にも配慮しつつ個に応じた指導をしている。

また、毎月の遅刻数を発表するなど全体に対する注意喚起も行っている。

【委員】三国丘の生徒が将来活躍するためにもタイムマネジメントは重要。継続的な指導が大事。

【委員】三国丘では三丘セミナーや京都研修など+aでいろいろなイベントを実施しているが、他校主催や外部イベントへの参加も検討してみてもどうか。教員の業務も軽減されるのではないかと。例えば京都大学でも高校生を対象にした講義が開かれている。高校生たちが、高校の講義と大学の講義の違いに刺激を受けるのではないかと思う。

【学校】GLHS10校が主催している京都大学キャンパスガイド等に参加している。ご助言のとおり、本校生にとって大きな刺激になることは間違いないと思うので、生徒の状況を見て検討したい。

(2) スクール・ミッションについて（案を示して意見を伺った）

【説明の概要】

- ◇ スクール・ミッションの位置づけは、学校組織の普遍的中心的価値、学校の存在意義
- ◇ サイクルは10年(10年は変えない)
- ◇ 学校の歴史を示すために伝統校という文言を入れた
- ◇ 三丘スピリットは本校の1番中心的な考えなので「高い理想、深い叡智、重い使命を抱き社会に貢献する志を持った骨太なグローバルリーダーを育てる」という文言も入れている。

【委員】他の学校との違いはどこか。

【学校】三丘スピリットの部分。

【委員】生徒の将来やキャリア形成などの視点を入れた方がよいのでは。

【委員】三国丘高校の特徴としては自由な雰囲気というものがあると思う。また、自分のことは自分で律して、自由な雰囲気の中で自分の能力や個性を出していく…三丘生にはそういう気質があるのではないかと考えている。そういう意味では三丘スピリットを前面に出すのは良いと思う。

【委員】本校卒業の大学教授等と話していても学校としての自由度と教員の許容量ということが話題に上がるので、その2点がわかる文言があればいいなと思った。また、三国丘では三丘セミナーなどの機会により生徒が様々な気付きを得られる機会があるので、スクール・ミッションにもそういった、気づきを与え、生徒の望むところを広くできるような教育を行うといった意味合

いの文言があればと思う。

【学校】様々ご意見ありがとうございます。ご意見は極力スクール・ミッションに反映させます。

【学校】次に、スクール・ミッションに関連して、学校の魅力を発信するという観点から、11月に予定している学校説明会で上映するビデオの一部をご覧いただきたい。ご覧いただく部分は生徒会が作成した動画である。なお、今回は参加を希望する中学生やその保護者を一切断らない（参加制限を設けない）という方針で募集をしたところ、2日間で3000名以上の応募があったことを申し添える。→ビデオ上映

【委員】すごく良い。学校行事等において、何事も生徒主体だということが伝わってくる。

(3) 各学年の状況について（報告）

【説明の概要】

〈3年生〉

- ・ 体育祭の応援団という大きなイベントが終了。コロナの影響でこれまで強い制限下での体育祭が続いたが今年度はほぼ以前の形に戻した。これで1、2年生に伝統を継承できた。

〈2年生〉

- ・ 学年通信にあるとおり、読書を勧めている。また、来週は修学旅行に出発する。

〈1年生〉

- ・ 校外学習の計画。計画立案はすべて生徒。無事に実施できることを願っている。

質疑応答なし

(4) スーパーサイエンスハイスクール今年度の取組みについて（報告）

【説明の概要】…第1回学校運営協議会以降の取組について説明

- ◇ 実践化学実験ですが、昨年度までは生徒が自分たちで実験方法を考えるという実践科学実験を行っていたのだが、SSH3期の指定を受けたので、それに加え、クロームブックや分光光度計を用いた、SSHの学校でしかできないような実験を考えている。
- ◇ 探究活動では、2年生が9月に中間発表を行った。1年生の見学も多数見られました。
- ◇ 体感校外学習では、コロナで中止していた磯観察、JAXA見学等を復活させることができた。2月にはNASAツアーを復活させる予定。

【委員】予算はどんな感じか。

【学校】SSHとしては750万円あるが、用途については様々な制限がある。

(5) スーパーグローバルハイスクール今年度の取組みについて（報告）

【説明の概要】…第1回学校運営協議会以降の取組について説明

- ◇ リーハイ大学の海外研修を京都にてオンライン受講した。複雑なトピックに関して英語でディスカッションする機会が新鮮だったようだ。満足度は100%を得ることができた。
- ◇ 本年度もビジネスコンテストへの参加が決まった
- ◇ ビジネスプランコンテストで世界最優秀を獲得した、レルカップがフランスに招待されましたが中止となり、代わりに川淵三郎先生のはからいでサッカー日本代表 GKの川島永嗣さんとオンライン交流をした。サッカー部員も参加し非常に盛り上がりました。

(6) 進路指導関係の状況について（報告）

【説明の概要】…第1回学校運営協議会以降の取組について説明

- ◇ 共通テストの出願が完了。98.7%の生徒が出願した。
- ◇ 先輩との交流会等も経て、夏休みごろから本格的に頑張ってくれている。

【委員】 海外の大学進学希望はありますか。

【学校】 今年はない。SGH等の活動で海外に行けていないのが理由かもしれない。

(7) その他

特に質疑なし